

# おにの家新聞



地域福祉活動グループ NPO 「おにの家」

埼玉県熊谷市板井1220-1

電話 048-536-1344

<http://onikko.org>

おにっこハウスでは今14名の仲間が店舗、養鶏、味噌の3つの班に所属して働いています。勤続年数、30年越えの創設期の人から、最短3年目のフレッシュさんが揃い、養鶏班では、お正月もお盆もなく、暑い日も寒い日も働き、店舗班では、祝日もGWもなく、皆一生懸命です。

今年は障害者雇用の不正ニュースも流れ、本来国としてのるべき姿が尊守巡行されていない実態に驚き、怒りと諦め半分の気持ちでそのニュースをみていました。

学校就学の機会さえ奪われていた過去、ハンディのある人たちが社会の中でその存在を示しながら生きていくという場を奪われて来たという過去でもあります。

「働く」という生き方は私たちも同じですが、社会とのつながりを持ちながら生きていく一つの場であり、その行為が周囲の人を楽(らく)にする(はたをらくにする)という意味合いを持ちながらたくさんの人と接点を築いていくものではないかな…と思っています。

ハンディのある人もそれぞれの個性を生かして働ける社会。

おにっこハウスはそんな小さな社会(場)で有りたいと願いながら私たちも働いています。

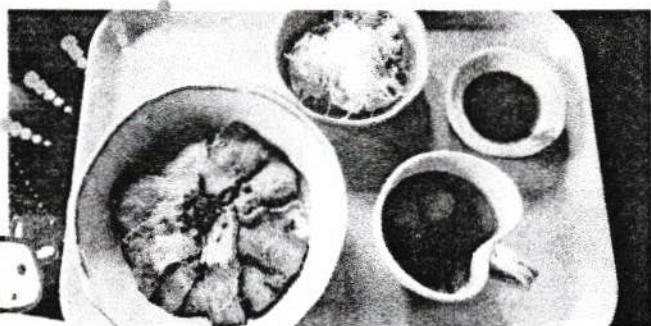
たくさんの「ありがとう」「ごちそうさま」「おいしかったよ」などのお客様や皆様の声に支えられて今日もみんなで一日「元気に楽しく働きます～!!」

## 秋の研修会

2018.9.30(日)

今年の秋の研修は台風24号が心配される中、傘の心配もなく秩父、小鹿野、神川と近場とは言え充実した一日でした。

参加者は29名。まず向かったのは、秩父ミューズパーク内の「MAPLE BASE」。秩父産メープルシロップ入りのスイーツに舌鼓を打ちました。次に向かったのは小鹿野町の坂本牧場。自立支援農場「きずな作業所」で、約100頭の牛をお世話する仲間たちと交流しました。牛も人なつこく頭なでなで、手をペロペロされながらもランチは牧場直営の「ぎゅうや」でローストビーフ丼をぺろりと平らげました。最後に向かったのは神川町の創業明治35年「ヤマキ醸造」を見学しました。国産有機大豆を使った味噌、醤油、豆腐などなど買い物を楽しみました。



「ぎゅうや」ローストビーフ丼 仲間たちが手際よく配膳してくれました



「MAPLE BASE」のジェラート 秩父産のメープルシロップ入り

# 仕込み班

今期は11月5日からスタート！

秋の深まりと共に、いよいよ、みその仕込みシーズンが到来。今期は11月～4月中頃まで仕込みを行う予定です。その期間中、お客様のみぞ仕込みは、1月～3月の寒い時期に承ります。この冬も、仕込み班17人でおいしいみそを作つて行きたいと思います。よろしくお願ひします。

この秋から販売を開始した新みそは、豆の甘みの味わいがするみそになりました。シンプルで無添加のおにっこみそは、原材料の出来に作用されるので、穀類の収穫が始まると、おいしい豆や米ができたかとそわそわしてしまいます。

2018年の夏があまりにも暑く、作物にどんな影響を与えるかと心配しましたが、米、豆は豊作になりましたね。今年の穀類の味を見ると、来年、お客様にお届けできるみそも、おいしく出来そうです。ほっとひと安心。これからも、地元の方々の農産物とおにっここの仕込みの経験がおりなした、おいしいみそになりますよう努めて行きたいと思います。

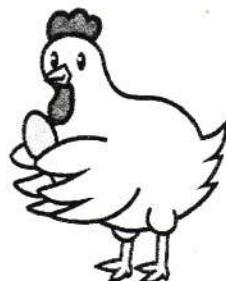
楽しみにしていてくださいね。

(左古)



# 養鶏班

仕事通して「命をいただく」を学ぶ



私が味噌・養鶏班の仕事を始めて10月で1年になります。体力不足などできっかり腰からのスタートで皆さんに迷惑を掛けてしまうことなどもありました。

養鶏の仕事は、暑く日差しが照り返す日や、雨や風が強い日でも鶏のお世話をします。重い飼料を運ぶえさ作りや鶏糞作りなど、慣れない作業にはじめは戸惑いました。でもそのような仕事をしていく中で、“命をいただく”ということは、このような日々の飼育があってこそなんだと改めて感じています。

最近では、一年を通しての味噌・養鶏班の仕事の流れがわかるようになってきました。農家さんの畑に行き鶏のエサとなる野菜採り。麦の穂を収穫して、お中元などのラッピングの準備。野菜の種を採取して次の種まき用に保存する作業や最近では栗拾いの作業を行いました。一つ一つが仲間との手作業です。仲間との繋がりや地域の農家さんたちとの繋がりで、卵や味噌が商品として流通していくんだと勉強になっています。

これからも「おにっこ子の卵は美味しい！」と言われるように、鶏の飼育を頑張っていきたいと思います。

(名里)

# 小原ホーム・ハイツ桜ヶ丘

## 新グループホーム開設



予定より数か月遅れてしまいましたが、新グループホーム「ハイツ桜ヶ丘第2」定員7人を今年8月に開設しました。

埼玉県のグループホームは、1982年に青い鳥福祉会が「堀田荘」を開設、1986年に鴻沼福祉会が「たかさご荘」を開設。1988年埼玉県が「生活ホーム事業」を開始、1989年国が「グループホーム事業」を開始。今では、民間企業も参入し、現在、約750ヶ所ほどあるようです。

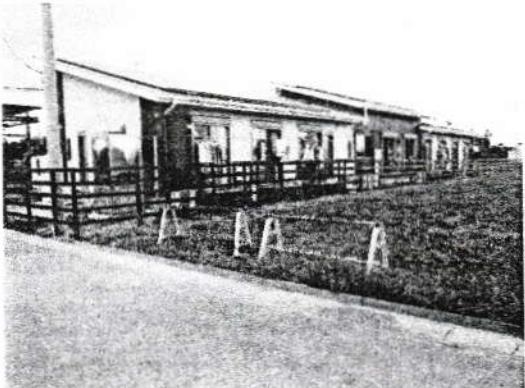
当法人では、1996年4月に生活ホーム小原5名定員を開設し、翌年に味噌蔵の新築と合わせ2階に2部屋を作り7名定員になりました（2012年1月にグループホーム事業へ移行）。その後、おにこハウスの利用者から入居希望があり、2006年4月にハイツ桜ヶ丘6名定員（その後7名定員）に開設し（2009年3月にグループホームへ移行）、2017年6月には、ハイツ桜ヶ丘から自転車で10分ほどのところに、アパートの1部屋を借り上げ、サテライト事業を開始しました。（サテライトは、ホーム職員の支援を受けながら、自立に向けた暮らしをするところ）そして、ハイツ桜ヶ丘の南隣にハイツ桜ヶ丘第2の開設となりました。これで3ホームになりましたが、小原ホームは、6部屋が2階で階段の上がり降りが大変になってきたり、スプリンクラーを設置しなくてはならないなどを考慮し、廃止する予定になっています。

ハイツ桜ヶ丘を利用するかハイツ桜ヶ丘第2に暮らしたいか、家賃の提案をし希望を聞かせてもらい部屋が決まりました（職員の配慮も入れて）。今年の8月も暑かった、仕事を休み保護者にお手伝いしてもらい、11名が引っ越しをしました。8月・10月から新しい利用者さんも入居しサテライトを含め、15名の暮らしの場となり、開設から2か月が過ぎました。まだ、小原ホームにたくさんの荷物を残している人もいますが、それぞれのところで新しい関係づくりが進められているようです。

ハイツ桜ヶ丘第2は、写真のように平屋づくりになりました。また、グループホーム建設には、いくつかの条例がありバリアフリーが進められていて、建設費はこれまでのホームより増えてしまいました。それでも、今後の利用者さんの暮らしを考えると暮らしやすくなっているように思います。

事業所で加盟している障害者の全国組織きょうされんのスローガンに、「あたりまえに働き えらべる暮らしを」というのがあります。本当に住むところや住む人を選べるといいと思います。それでも暮らしの中で、自分でえらんで自分らしく暮らしていくよう支援をしていきます。また、「すきなときに すきなひとつ すきなところへ」というスローガンもあります。私たちは、利用者さんとホームや地域の中で、こんな暮らしをめざして進めていきたいと思います。 (櫻井)

平屋づくりの  
「ハイツ  
桜ヶ丘  
第2」



# 夏の旅行

熊谷地 那須へ



7月8日(日)



夏の暑い熊谷を離れ、涼を求めて避暑地、栃木県那須に行ってきました。

出発早々、車内では恒例のカラオケTIMEです。みんなカラオケが大好きです。ポップ・演歌・民謡…朝から大にぎわいでした。

まず着いたのは、那須の「茶臼岳」ロープウェイに乗りました。山の上は15℃と寒く、風がびゅ～びゅ～足場が悪いのに、みんなで手を取り合って頑張って登りました。

昼食はサッポロが運営する「森のビール」。ビールとジンギスカでお腹い～っぱいで大満足。

次に向かったのは、「南ヶ丘牧場」馬・ロバ・ヤギ・ひつじ、特に大人気はうさぎさんぽで、触れあえる動物達がたくさんいてとても楽しかったです。

最後にたずねたのは…「殺生石」。不気味な名前です。殺されたキツネの怨念が乗り移ったとされる岩が、殺生石です。そこにたどり着くまでには…たくさんのお地蔵様が…何も感じませんでしたが、どうやらここは…心霊スポットらしいです。

さてさて、帰りのバスではこれまた恒例のbingo大会。今回の1抜けは…のりちゃん!

帰りのバスは尾島施設長の挨拶で今年も楽しい旅行になりました。

パワー満タン充電アップ、スタッフ一同、よりいっそう頑張ります。



那須 茶臼岳山頂にて



南ヶ丘牧場にて



殺生石にて

## ■ 夏のレクリエーション



2018.9.4

今年の 夏のレクリエーションは…

～鍋しやぶしやぶ食べ放題～

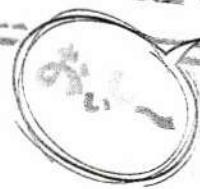
なぜ??これになったかって！？

それはね…

みんな食べることが大好きだからです。

お肉のお皿のタワーに山盛りのご飯、野菜もたっぷりです。

デザートは別腹ね。お腹いっぱい幸せ満点!!



## 編集後記

熊谷がまた日本一の記録をぬりかえた、猛暑。

次々と上陸する台風、少しづつ少しづつ今までとは違ってきている環境を感じています。

たくさんの自然災害も起こりました。自分たちには関係ないと言い切れません。

皆といろいろな所に行き、笑い、楽しめること、

当たり前のよう今日が始まる有り難さを、時として大切に感じたいです。(松村 里香)

